

## 東京都立小松川高等学校令和5年度第76回卒業式式辞

東京の桜も開花を間近にし、日一日と春めています。

3年生の皆さん、卒業、おめでとう。ご来場の保護者の皆様、本日はお子様のご卒業おめでとうございます。今年も保護者の皆様に卒業式にお招きすることができ、大変うれしく思います。例えば106期生の皆さんは入学から2年間以上、制約のある学校生活を送ってきました。その中でも、色々な活動に取り組んでいた皆さんの姿が印象に残っています。

部活動では運動部の試合や文化部の発表を観たり、探究活動で相談したりと間近で活動する皆さんの一生懸命な姿に感動していました。また、昨年度は修学旅行に行きました。「修学旅行は一生の思い出になり、大切な人を連れて行ってください」と話しました。私は男子のグループと国際通りを回ったことが楽しい思い出となり、沖縄がますます好きになりました。そして、今年度の体育祭ではどの団でも応援団をリードし、応援の演武は凛々しく、本校の校風である質実剛健を地で行く見事な応援でした。文化祭でも、3年生として有志団体や準備で参加してくれて来年度につながると思いました。

2学期は総合型選抜の対策として、生徒と面接練習をしました。どの生徒も自分の考えをよくまとめ、一生懸命答えていました。小松川の生徒の誠実さを感じさせてくれました。

3学期も希望の進路実現に向けて頑張りました。2月になっても、コマホールや教室で勉強し、3月になっても教室で勉強する生徒がいて、最後まで頑張りとおしました。

そのような皆さんに、はなむけの言葉を2つ贈ります。

「自分は自分の主人公　世界でただひとりの　自分を作っていく責任者」

教育者・東井義男（とういよしお）さんの言葉です。

「世界でただ一人の私を、どんな私に仕上げていくか。その責任者が私であり、皆さん一人ひとりなのです。」という意味です。なりたい自分に仕上げて行ってください。

もう1つは、「艱難汝を玉にする」というフランスの言葉です。「辛いことや苦しいことは、あなたを人として磨きます」という意味です。辛いことや苦しいことがあったら、今は人として磨かれていると客観視するくらいの気持ちで向かって行ってください。

最後に、本日、ご列席の皆様、ありがとうございました。皆様のお祝いのお気持ちや、3年間を労うお気持ちは卒業生に届いていることと思います。学校を代表してお礼申し上げます。これからも、小松川高校への変わらぬご支援をお願いします。

以上をもちまして、私からの式辞とします。

令和6年3月15日

東京都立小松川高等学校長

北江 繁治